



カラーでご覧になりたい方は、錦小HP「学校だより」<http://www.ueis.ed.jp/school/nishiki/>までHPでは、学校だよりで紹介できなかった写真も掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

「おはよう！」で気持ちのよい一日のスタートを！！

学校では、あいさつに対する児童の意識を高め、自発的なあいさつの習慣付けをねらいとして、11月16日（月）から20日（金）までを「2学期 あいさつ週間」と位置付け、あいさつ運動を実施しました。

日頃から委員会の常時活動としてあいさつ運動を行っている運営委員と各クラスで選出されたあいさつリーダーの児童達が、昇降口前のあいさつロードに立ち、登校してきた児童達に元気よく朝のあいさつを行いました。参加した児童からは、「あいさつの声をかけても返ってこない」と悲しかったので、これからは自分もしっかりと進んであいさつをしたい。」などという前向きな感想が活動後に多く発表されました。

この運動がさらに実を結び、児童達自身があいさつの素晴らしい学校であることを地域の方々に誇れるようになるまで習慣付けてくれればと思います。

ご家庭、地域におきましても、お互いに元気なあいさつが交わせるようにご指導、お声掛けをどうぞよろしくお願いいたします。



「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して！！

11月9日（月）に今年度、第1回目の校内授業研究会を河内教育事務所の指導主事、中澤由香先生をお迎えして実施しました。

本校では、今年度、「『主体的・対話的で深い学び』を目指した授業の創造～自分の思いや考えをより深められる児童の育成～」を研究テーマに教員の授業力向上、児童のよりよい学びによる学力向上を目指して授業研究に取り組んでおります。

今回は、2年2組と5年2組で研究授業を行いました。どちらの授業も、児童達が生き生きと学習活動に取り組み、自分の思いや考えを深めていけるように頑張る姿が見られました。

授業研究会では、研究授業をもとに、児童が興味・関心をもって学びに向かうための工夫や互いの考えを比較する場面の設定の工夫などの点を中心に協議を行い、最後に、指導主事の中澤先生より指導助言をいただきました。

今後も、今回の授業研究会の成果や課題をもとに、日々の授業改善に努め、児童の学力向上に全力で努めてまいります。



＜2年2組児童の学習の振り返り＞

- 色鉛筆とクレヨンの同じところと違うところについて見付けるのは難しかったけれど、頑張って見付けられて良かったと思います。
- 友達からの意見を聞いて、色鉛筆とクレヨンの違いがよく分かって良かったです。

＜5年2組児童の学習の振り返り＞

- 反対意見を出すのが難しかったけれど、友達にももらった意見を参考にして意見文を考えたいと思います。
- 一人では思いつかなかったことも、皆で考えれば良い案が浮かびました。早く意見文が書きたいです。

おじゃまします！！教室訪問 ～4の1～

第7回目は、4年1組です。担任は、K 先生です。算数の時間にお邪魔しました。

本時は、「小数のしくみ」という単元（学習のまとめ）で、「1/100の位までの小数の読み方、表し方、数の構成を理解する」ことをねらいとして授業が行われました。

授業の最初に、先生は、「いろんなペットボトルを集めてみましたよ。」「これは、炭酸系の飲み物かな?」と言って、大きさや形状の違う形の4つのペットボトルに水が入っている絵を提示しました。児童達は、興味を示し、教師の「これは何が入っているペットボトルでしょう?」の問いかけに、「これはお茶だと思います。」「これは、スポーツドリンクです。」とそれぞれのペットボトルに入っている飲み物について元気に発言していきましました。



先生は、「それぞれの入れ物には、水が入っています。4つのペットボトルの水のかさは、どれくらいですか?と尋ねました。すると、多くの児童の手が挙がり、指名された児童は、「アは、20dLです。」「イは、9dLです。」「ウは、5dLです。」「エは、15dLです。」とはきはきと答えます。先生は、「前に勉強したことを思い出してください。20dLは、何リットルでしょう?」と尋ね、児童から「1L=10dLなので、2Lです。」とこれまで学習してきたことをもとにしっかりとした答えが出てきます。先生は、「イは、10dLになっていませんが、どうしますか?」と尋ねます。児童が、「小数でできます。」と元気よく答えると、先生は、「そうですね。1の $\frac{1}{10}$ →0.1これを使えばできそうですね。」と言い、ペットボトルのかさを尋ね、「イは、0.9Lです。」「ウは、0.5Lです。」「エは、1.5Lです。」と児童達が答えていきます。ここまでは、これまでの復習です。児童達は、しっかりと学習内容を身に付けていることが分かり、大変感心しました。

次は、いよいよ本時の中心の学習活動に入ります。先生は、「このペットボトルは、もう少し水が入りそうなので、さらに水を入れました。リットル枡（入れ物）に移してみたら、目盛りの0.5と0.6の間になってしまいました。水のかさは何Lなのでしょう?どうしたらよいのでしょうか?」と児童達に尋ねました。

児童達からは、「理科の温度計では、目盛りに近い方で読むから近い目盛りで読むのはだめかな。」「もっと細かい目盛りをつけるのはどうですか?」「0.5と0.6の間に、また10個の目盛りをつければよいのではないですか?」と自分なりに考えたことが進んで発表されました。意欲的な学習姿勢に感心しました。

そして、先生は、「では、0.5と0.6の間に、10個の目盛りをつけてみましょう。」と作業の指示をしました。児童達は姿勢よくきちんと定規を使いながら目盛りを付けていきます。4の1の児童達は作業が丁寧です。

その作業を見ていくと、ノートの文字が丁寧で、必要なところでは定規をきちんと使いながら、作業を進めたり、まとめをきちんと記録したりしている様子もよく分かりました。

目盛りを付ける活動が終了し、先生は、児童達からの発言により水が目盛りの8個目になったことを確かめた上で、「この水のかさを何Lと言えばよいのでしょうか?」と言い、黒板に『0.1より小さい数の表し方を考えよう』と書き、0.5と0.6の間に、10個の目盛りをつけた図も掲示しました。そして、児童達にじっくりと考えさせる時間を取りました。

児童達は、先生が黒板に分かりやすく整理したこれまでの学習活動の結果などや教科書を見ながら、自分なりに考えていきます。それから、発表となりました。児童達からは、「0.5と0.6の間にある8個目の目盛りだから0.58だと思います。」「0.5と0.6の間は、0.1だからそれを10に分けたので目盛りの1つ分は、0.01というふうになるのではないかと思います。」という意見が出てきます。先生は、「0.01が、何個分ありますか?」と問いかけ、児童から、「8個分です。」という意見を引き出し、「だから何リットルになりますか?」「0.08Lです。」というように児童の考えや意見を大切にしながら、正しい答えに導いていきました。

最後に、本時のまとめとして、「0.1Lを10等分した1つ分は、0.01Lとなる」ことについて、先生が黒板にかいた図をもとに分かりやすく説明をして、授業を終えました。

K 先生は、理科が専門で、理科主任として理科室の実験器具の整備や管理、理科の授業についての研究リーダーとして活躍しています。K 先生とともに、4年1組の児童たちがこれからもさらにぐんぐん力を付け、より一段と素晴らしい児童に育つことを大いに期待しています。



- ※ 読みやすさを考え、教員の呼称は、「教諭」ではなく、「先生」とさせていただきました。
- ※ ホームページには、これら以外の写真も個人情報に配慮しながら掲載しております。ぜひご覧ください。